看板設置や路面に色

関越道進入の自転車男性死亡

一般道と区別明確化

県警 誤進入対策で要望

ニュース追跡

高崎市中尾町の関越道で先月二十三日、自転車で進入した男性(78)が車にはねられ死亡した事故を受け、県警高速隊は二日までに、道路管理者の東日本高速道路高崎管理事務所に対し、現場近くの前橋インターチェンジ（IC）付近に誤進入や逆走を防ぐための路面表示と看板を設置するよう求めた。昨年七月にも、埼玉県所沢市の関越道で同様の死亡事故が起きており、迅速な対応が求められそうだ。

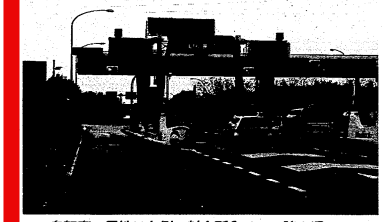
県警高速隊によると、男性は一般道から前橋ICへ進入し、料金所入り口を通って下り線へ入ったとみられる。無人の料金所入り口は地面に車両を感知する路板があり、通行券を取らずに通過するとゲートが鳴る仕組みだが、男性が板を踏まずに通過したため、職員が気付かなかったらしい。

同隊は事故後、逆走を含め、歩行者や自転車が一般道から料金所へ誤って進入しないよう、高速道路を示す標識を増やしたり、路面の色を変えるなどの対策を同事務所に要望。同事務所は「今は協議段階」としている。昨年、県内で歩行者などが高速道に立ち入ったケースは二十一件（前年比十件減）。車両の逆走は十八件（同十四件減）、ETCの路面の一部を緑色にする対策をとった。

二〇〇五年十二月には渋川市の関越道で、逆走した男性が死亡する事故が発生。誤進入を防ぐ目的で、国土交通省高崎河川国道事務所が渋川伊香保ICへ入り口付近の国道17号の路面の一部を緑色にする対策をとった。

埼玉県所沢市の事故現場視察、さらに今月、男性が進入したとみられる出入り口に、歩行者や自転車などの進入禁止の看板を設置するという。

管理すすべてのIC料金所入り口をモニターで監視するとともに、防犯の職員を置く方針。同じ日に、高崎市中尾町のアパートに「この住人が同様に消火器を販売した」と消防署の職員を装った男が訪れ、それぞれ被害者から相談があった。



自転車の男性は左側の料金所入り口の脇を通って進入したとみられる＝関越道前橋ＩＣ

銅製配線盗まれる

長さ20㍍重さ2㌧ 昨年10月にも被害

太田の会社

二日午前七時四十五分の窓をこじ開けたペニヤ板を外し、トラックなどを使って持ち去ったという。

同社では昨年八月二十三日夜にもかけて同じ窓のガラス一枚が割られ、配線用ケーブル約十二㌔（百五十万円相当）が盗まれている。同署は同一グループによる犯行の可能性もあるとみて、窃盗で捜査している。

窓は倉庫の東側にあり、道路から見えにくい。ケーブルは幅一㍍、長さ二十㍍ほどの溝があるという。

カウンセラー2人に

臨時教員逮捕 心のケア進める

わいせつ行為 地元教委

勤務していた小学校で、わいせつ行為をしたとして、伊勢崎市教育委員会が十二日、原口雅昭容疑者（42）＝同市＝を懲戒免職処分にしたことを受け、伊勢崎市教育委員会は